

## ほほえみ 第32号



母の日というのは、大々的に宣伝されますし、ショッピング・センターでもカーネーションの花盛りなのですが、父の日はそれに較べると地味で、なんとなくスルーした感じでした。最近では読まれない、『小学』という本があり現代の父の権威の低下を感じます。それは、さておき、いよいよ7月で、夏本番ですが、日本気象協会の長期予報では、平年並みか、やや暑いようです。暑くても、晴れと雨が適度に交代して欲しいと、家庭菜園をやっているとしみじみ感じますね。

## 生存曲線

患者さんと医療者の間で、最もコミュニケーション・エラーが起きやすい事柄に、余命とか生存期間のことがあります。患者さんが想像する余命とは、ずばり自分に残された時間ですが、医療者のいう余命は、統計情報から推測した、中間の値(科学的な推測)になります。とはいっても、統計的な推測ということ自体が、イメージしにくいですね。

通常、化学療法の領域では、最適の治療法を見出すために、臨床試験ということを行います。数百人規模の方に参加いただいて、複数の治療(仮にA群、B群とする)を、実際に受けていただいて、どちらの経過が良かったか比較するのです。これは、数学的に比較に耐えるような科学的な検討です。そして、臨床試験の結果は、主に生存曲線として得られます。

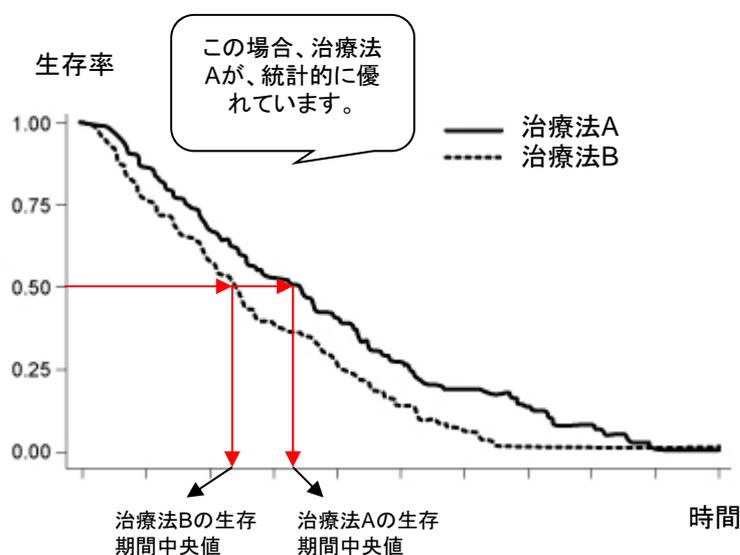
生存曲線は、横軸に時間、縦軸に生存率をとった線グラフなのですが、通常、人間はいかなる場合でも100%生き続けることはありませんので、線グラフは時間経過とともに右下がりになります。このとき、元もとの集団の性質は同じで、受けた治療法だけが違うというときに、線グラフ同士に差が生じるならば、それは治療の優劣を示すということになります。線グラフが重なれば、治療法に優劣はありませんね。何十年も、何回もいろいろな臨床試験をして勝ち残ったものに、再度、チャレンジを繰り返すのですが、ちょっとずつ地道に曲線が右上に上がってくるのですね。

と、ここまででも、見慣れないものが多くて理解しづらいところですが、医学的にいう生存期間とは、生存曲線で生存率が50%になる期間のことを言います。

ここで、生存率が50%になる期間は、代表的なポイントではあるのですが、当てはまる人はごくわずかです。つまり、半分の方はこの期間より長く、残り半分の方はこの期間より短いということです。科学的には、余命の予測は当たらないということですね。

一方、科学的でない余命の予想というのは、主治医の印象ということなので、単なる推測です。

占いでは、「当たるも八卦、当たらずも八卦」といいますが、易経では、現実を見ずして占うことは、易の本来の意味ではないと言います。易経を学ぶのは、現実世界の生々流転を読むことが本来の目的と言いますから、人間が未来を予測することはいかに難しいか、ということになるでしょう。



## 第18回 日本緩和医療学会学術大会 「いきいきと生き、幸せに逝く」へ参加して

がん化学療法科 福田耕二

18回目となる同学会は、6月21日22日にパシフィコ横浜で開催されました。演題数は約1300題にもものぼる国内最大級の学会です。本学会の特徴は、参加者の多様性にあります。これほど多業種がそれぞれの特徴について主張し、議論し、共感しあう学会は類を見ず、むしろ医師が主体となっていない学会です。できれば目を背けたいが、避けることはできない終末期医療・緩和医療の充実には、家族を含め患者を支えるすべての医療従事者がそれぞれの特徴を充分にいかすことができる「チーム力」が必要であることを痛感させられました。

さて興味深い話題に、「日本的チャプレンとしての臨床宗教師とその課題」というものがありました。“チャプレン”というのは病院やホスピスで働く聖職者(牧師・神父・僧侶など)のことです。東日本大震災の被災者支援活動として立ち上げられた「心の相談室」が活動を継続・拡大し、東北大学に「実践宗教学寄附講座」が設立され、チャプレンが緩和ケア領域で活躍することを目指して研究されています。しかし日本人にとっての宗教とは民間信仰が多く、海外のチャプレンの役割をそのまま外挿することはできません。日本的チャプレンが緩和ケアチームとしてチーム力を発揮できるようになることを期待しています。

なお県立中央病院でも「緩和ケアチーム」が活動しております。入院患者さんだけでなく、外来患者さんもケアの対象としておりますのでご相談ください。



赤レンガ倉庫の前の、横浜港

### 家庭菜園 (6月の経過)

昨年からはじめた家庭菜園ですが、5月、6月で概ね、種まきや植え付けは完了しました。今年は、キュウリやインゲンといった、棚を作るような作物にも挑戦しています。

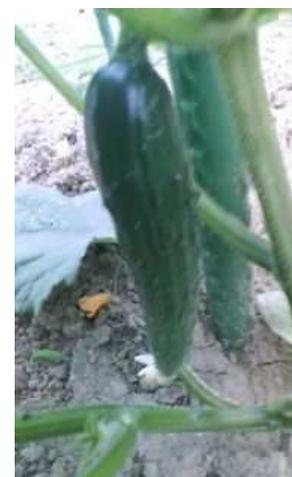
今年、初挑戦なのは、キュウリ、インゲン、ピーマン、クウシンサイですが、サツマイモも今年は、安納イモと鳴門金時になりました(紫イモは売っていません)。

キュウリは、よくわからないうちに大きくなってきて、7-8センチのが出ていましたが、本を見ると整枝が必要のようで、一個収穫したら整枝しようと思っています。

ニンジンも、二年目ですが、やはりニンジンよりも雑草がどんどん増えてきて、ピーター・ラビットのようなニンジン畑を作るのは何か工夫が必要だなあと感じています。



クウシンサイの発芽



キュウリに挑戦中

### MEMO

#### 7月のがん化学療法科の予定

- |       |                   |
|-------|-------------------|
| 7月12日 | 柴田教授外来            |
| 7月15日 | 海の日               |
| 7月19日 | 新渡戸稲造祈念 メディカル・カフェ |
| 7月26日 | 柴田教授外来            |
| 8月2日  | 当院が「さんさ踊り」に参加します  |

